

平成28年度第1回 阿波市総合教育会議 会議録

(1)会議 開催日

平成28年9月28日(水)

阿波市役所 2階 災害対策本部室

午後1時30分から午後3時30分まで

(2)出席委員の氏名

市長	野崎 國勝
教育長(委員)	坂東 英司
委員長	重清 由充
委員	大戸井 美生
委員	安田 佳子
委員	森 勝正
委員	庄野 憲二

(3)委員を除く、議場に出席した人の氏名

阿波市議会 議長	江澤 信明
阿波市議会 文教厚生常任委員会 委員長	松村 幸治
副市長	藤井 正助
政策監	市原 俊明
市民部長	坂東 重夫
健康福祉部長	高島 輝人
産業経済部長	天満 仁
建設部長	大野 芳行
教育次長	後藤 啓
教育次長	高田 稔
教育総務課課長	猪尾 正
学校教育課課長	成谷 史代
教育研究所研究員	村上 哲治
企画総務部長	町田 寿人
企画総務部次長	安丸 学
企画総務課主幹	坂東 明

(4)傍聴人

傍聴人 0名

<p>事務局 安丸次長</p>	<p>それでは、皆さんこんにちは。ただいまから平成28年度第1回目の総合教育会議をはじめさせていただきます。本日の出席者の皆様方につきましては別紙の席順表のとおりでございますのでご紹介を控えさせていただきます。それでは、ただいまから阿波市総合教育会議を開催いたします。どうぞよろしくお願い申し上げます。初めに野崎市長よりご挨拶を申し上げます。</p>
<p>野崎市長</p>	<p>皆さんこんにちは。今日は、ずいぶんと真夏に戻ったような感じで東京は非常に暑い日が続いているようです。今日は平成28年度第1回目の総合教育会議開催にあたりまして一言ご挨拶を申し上げたいと思います。</p> <p>まず、教育委員の皆様方におかれましては本市の子ども達の健全育成のために格別のご尽力をいただいておりますこと心から感謝を申し上げます。また、本日は本当にご多忙の中ご出席いただきまして誠にありがとうございます。</p> <p>さて、市長と教育委員会が互いの役割、権限を尊重しながら本市教育の将来像や課題につきまして共有して効果的な教育行政を進めるために設置されました総合教育会議でございます。地方教育行政法は平成27年4月1日に改正され、これに伴いましてこの会議の設置が義務付けられたところ です。</p> <p>本市におきましても平成27年5月28日に第1回目の総合教育会議を開催いたしまして11月の第2回目の総合教育会議では阿波市の教育大綱を定めたところであります。</p> <p>本市におきましては昨年10月に「輝く阿波市に煌めく未来」を題しまして阿波市の総合戦略を策定しまして様々な事業に取り組んでおりますけれども教育分野におきましては若者が安心して家庭を築き、子どもを産み、育てたいという希望を実現するため全ての市民が子どもは阿波市の将来を担う大切な存在であるとの共通認識にいたしまして社会全体で子育て、教育を実践していく環境整備を進めることとしております。</p> <p>今後、総合教育会議におきましてもさまざまなお意見をいただきながら教育環境の充実に努めてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いしたいと思います。</p> <p>さて、本日の総合教育会議でございますけれども阿波市の教育大綱の基本方針である情報教育の充実と国際感覚豊かな人材育成。確か、これは大綱の4番目だったと思いますけれども、それに関連する阿波市におけるICT教育における取り組みについてご協議をいただくことになっております。ご承知のように各小中学校におきましては平成27年度にタブレット</p>

<p>事務局 安丸次長 坂東教育長</p>	<p>型のコンピューターを配置いたしました。タブレットをはじめとする ICT 機器を活用いたしました授業を展開することによりまして確かな学力と主体的に問題解決出来る情報の活用能力が培われていると認識しているところです。本日はその教育現場の状況あるいは取り組みの効果等々につきまして議論をお願いしたいと思っております。</p> <p>限られた時間でございますけれども阿波市のより良い教育実践のためにご意見をいただきますよう切にお願い申し上げまして私の挨拶とさせていただきます。本日はよろしく申し上げます。</p> <p>続きまして、坂東教育長よりご挨拶がございます。</p> <p>本日は、江澤議長様、松村文教委員長様はじめ市幹部の皆さま方ご臨席のもとに総合教育会議が開催されますこと誠に嬉しく思っております。</p> <p>昨年の会議では、「明日に向かって 人の花咲く 安らぎ空間 阿波市」の将来像のもとに市の教育に関する総合的な施策の大綱である阿波市教育大綱を策定することが出来ました。教育委員会では平成 28 年 3 月にこの大綱のもとに第 1 次阿波市教育振興計画(後期計画)を策定し新たな教育行政施策、その計画に基づいてそれぞれ目標値を設定し実施していくところでございます。</p> <p>さて、阿波市は子育てのまち、そして住み続けたいまち阿波市として一定の評価をいただいております。こうした阿波市の未来は人材の育成にかかっており、これからの変化の激しい社会を生きることが出来るよう生きる力を確実に身に付けさせることが求められています。そのために、確かな学力や豊かな心、健やかな体などの知・徳・体をバランスよく育てるために、生きる喜びや学ぶ楽しさを味わえるような魅力のある教育活動を学校、家庭、地域がそれぞれ連携協働しながら展開していくことが重要となります。あわせて、生きる上での基本であって知・徳・体の基礎となる食育を推進するとともに阿波市の強みを生かしたこれまでの教育施策を継承しつつ国際社会教育や情報教育などの充実を図っていくことが大切であると思えます。</p> <p>本日は先ほど市長からお話がありました ICT 教育についての話し合いがもたれます。授業で分からないということをなくしたい、もっと良い授業をしたい、そんな教員なら誰もが持っている願いが大きな力となるのが ICT であります。ICT とは「Information and Communication Technology」の略で情報コミュニケーション技術と訳されておりまして一言でいえば子ども達の情報活用能力の育成であります。阿波市では、今年の 9 月に全て</p>
-------------------------------	---

	<p>の小中学校にタブレット型パソコン、実物投影機、プロジェクター、スクリーン、その他の周辺機器を整備いたしました。市当局の支援を基にこうした思い切った ICT 教育の環境づくりは県下でもあまり例がなく他の市町村からも注目をされており。スタートしたばかりでございまして現在各学校においてはいろいろと研修に励み、その活用に積極的に取り組み指導方法の改善が図られているところでございます。本日はこうした ICT を活用した取り組み、課題などを共通に理解していただき話し合いをしていただければ幸いです。どうぞよろしくお願い致します。</p>
<p>事務局 安丸次長</p>	<p>それでは、議事に入らせていただきたいと思ひます。議事は市長の進行で進めていただきたいと思ひますので野崎市長よろしくお願ひ致します。</p>
<p>野崎市長</p>	<p>議事を進めさせていただきますけれども、座って進めさせていただきます。よろしくお願ひします。</p> <p>それでは、お手元の第1回総合教育会議次第の議事にのっとりまして議事を進めていきたいと思ひます。議事の内容、私のほうで挨拶もさせていただきますけれども阿波市における ICT 教育の取り組みについて、もう一件はその他という議事になっております。まず ICT の教育方針について事務局の方から説明をよろしくお願ひします。</p>
<p>村上研究員</p>	<p>教育研究所の研究員村上でございます。本日はこのような場を与えていただき大変ありがとうございます。ただいまより ICT 教育についての取り組みについてお話をさせていただきます。パソコンの操作上座って説明させていただきます。テレビのほうをいろいろな角度でご覧ください。</p> <p>では、さっそく始めさせていただきます。阿波市に昨年8月、県下で初めて全小中学校に配布されたタブレット PC をはじめとする ICT 機器をどのように活用してきたか、その取り組みをご紹介します。</p> <p>まず、阿波市教育大綱には「明日に向かって 人の花咲く 安らぎ空間阿波市」の実現に向け豊かな学びの環境を充実するとあります。それをうけて市の教育振興計画にも生きる力の育成を重視した教育内容の充実の中で情報活用能力の育成や児童生徒の学習活動が主体的、積極的なものとなるよう ICT の効果的な活用推進を図るとあります。すなわち、確かな学力をつけるために ICT を活用した授業をしようというわけです。その目的を達成するため次のような ICT 機器等を導入していただきました。</p> <p>まず、左上にあります。児童生徒用タブレット PC でございます。小中学校14校に1クラス分が入っております。解き方を書き込みグループで</p>

見せ合ったりノートをカメラ機能で撮ったりして学習に活用します。夜間はこの保管庫のほうに置いて充電をしてまた次の日に使うということにしております。

そして、右側が教師用タブレット PC でございます。各教室横に設置されたアクセスポイントが無線の機械でございます。それで、このアクセスポイントと繋がっていてデジタル教科書の画面を映したり、デジタル教材の画面を映したりすることが出来ます。

また、左下にありますものは実物投影機と申しまして、カメラの役割をしており、その横がプロジェクターと繋がっていて教室の黒板に貼られたスクリーンにそれが映し出されるといった仕組みになっております。どの教室でも常設して使うことが出来るようになりました。機器は接続しておけば準備が簡単なので ICT 専用台を常設する学校も増えてきました。

また、ソフトウェアとしましてはデジタル教科書がご覧のように小学校は国語と算数、中学校は国語と数学、社会、理科、英語と 5 教科全てに入っております。また、タブレットの活用統合ソフトといたしまして小学校用のジャストスマイルクラス、中学校のジャストジャンプクラスが入っており、またフラッシュ型の教材としてフラッシュ基礎基本というものが小学校 1 年生から 6 年生用で入っています。また校務支援ソフトといたしましてはスズキ校務というソフトが入っております。

次にそれらの機器を活用して小・中学校でどのような授業を行われているかご紹介いたします。

まず、教師が教材提示に利用するパターンとしましては教師の模範を拡大して見せるというものがあります。今、前にいる女性の教員がなにをしているかと言いますと右上にありますたらいの上でもみ洗いをしているところでございます。先生が、「揉み洗いはこのようにする」と言いながら大きな画面で子どもたちに実際にしているところを手元の様子がよく分かるように見せています。子どもたちはこれを食い入るように見てやり方を学んでいました。

次も教材提示の例ですけれど、教師用タブレットを使って中学理科のデジタル教科書の画面をテレビに映し出しているところであります。生徒の教科書と同じ画面を拡大して見せたい、重要用語の解説の画面が出てきてそこにラインを引いたり文字を書き込んだりしながら使うとよく分かります。

次は基礎基本の習得の場面での活用です。学力向上推進講師が授業の冒頭いろいろな四角形を次々とテレビに映して面積の公式を全員に唱えさせているところです。何度も反復することで重要公式が定着していきます。

次からは児童生徒が活用するパターンです。教室で児童が1人1台ずつタブレットを使い社会科の調べ学習をしているところです。6年生は吉野ケ里遺跡や当時の生活の様子をインターネットで調べてノートに書いたりして学習をしていました。

次は表現制作での活用場面です。この写真は児童が1人1台タブレットのプレゼンソフトを使って土成町の有名な物や人物を調べまとめているところです。インターネット以外にも本を調べたり、地域の人にインタビューをしてそれらも一緒に勉強をしていました。

次は発表話し合いでの活用場面です。昨年10月に行われた県中学校数学教育研究大会における公開授業でグループ1台のタブレットを持ち図形の問題に共同で取り組み解き方を書き込んで教師に相談しているところです。この後教師が選んだグループの画面が前の大画面に映し出され、グループ代表の生徒が堂々と発表をしておりました。この1. 2. 3の方では薄くて見えにくいのですが大きい画面の方には、辺と内接する四角形の図が描かれていると思います。こういった問題を解いて、いろいろな解き方で解いたものを生徒がそれについて説明をしてみんなで考えていくという授業をしています。

次はカメラ機能の活用場面です。この学校は体育の学習の時にお互いに陸上運動の練習をタブレットのカメラで撮り合いそれをグループで振り返りより良い動きが出来るよう改善のアドバイスをしあっていました。カメラは大変機能が簡単で子どもでもすぐ撮れますし後で見直していろいろな所で使えています。

次は学校の壁を越えた学習場面です。この写真は実は阿波市内の子ども達ではありません。どこかと言いますとカンボジアのプノンペン日本人学校の5年生7名、そして右側が担任の先生で実は真ん中にあるのが阿波市の学校支援ボランティアでもある伊沢校区にお住まいの武澤さんの写真です。現在、伊沢小学校の5年生と食育および国際理解教育での交流をタブレットのテレビ会議を通じて行っています。先日、初めてテレビ会議を通しての交流を行いました。まず、自己紹介をした後カンボジアのクイズを向こうが出しこちらが答えるという活動をしておりました。今後は児童が実際に栽培した野菜を使って丼物を作り向こうはプノンペン丼、こちらは伊沢丼、そういった物を作って紹介し合おうというプロジェクトが進行する予定であります。

次は阿波市の小学校情報教育研究大会の時のビデオを見ていただきます。2年生と5年生の授業が流れます。この後先生方の研究会が行われましたがその分はカットして次へ進みたいと思います。

それではアンケートから分かる ICT 活用の実態について説明をします。阿波市では市総合戦略の数値目標として ICT の活用時間を 1 校当たり年間 600 時間以上と決めました。これは 1 クラス週 2 時間、年間 100 時間の活用で達成することが出来ます。今年の月別活用実数は 4 月 143 時間、5 月 236 時間、6 月 315 時間、7 月 154 時間と 1 か月の平均は 1 校当たり月 212 時間でありました。このまま 2 学期、3 学期と使い続けると目標は十分達成できると思います。

では、タブレットをどんな場面で使ったことが多いかというアンケートをとりました。グラフを見て分かりますように教材提示、先生がいろいろな画面を見せて書き込んだりすることによって説明するときを使うというのが 1 番多くて、2 番目は子ども達が調べ学習をする場合、3 番目が撮影やドリルで使う場合、その他作品制作や意見共有の時に使われていました。

次は校務支援システムについてであります。ご覧のようにたくさんの機能がありますが今年から名簿管理、成績処理、保健管理、この 3 つについては全小・中学校で使われています。また、出席簿管理と通知表作成については小学校で使われ始めています。OECD の調査によると日本の先生は世界一忙しいと言われていますが今回導入された校務支援システムが校務負担軽減に役立ったかというアンケートをしてみました。すると、当てはまる、少し当てはまるを合わせ 92% の先生方が軽減に役立ったと答えています。

次は ICT を活用した授業を改善するために教職員の研修をどのようにしてきたかというところを説明します。昨年度 8 月に業者研修担当者による各校全体研修が行われました。タブレット PC 運用の基本やカメラ機能の使い方それに授業支援ソフトやデジタル教科書の使い方などを研究していました。その後各校でミニ研修が数多く行われてまいりました。

次は学力向上推進の研修の中での ICT 研修です。学力向上推進講師への研修ではフラッシュ型教材の作り方やそれを使った授業の仕方の研修を行いました。また、12月の学力向上推進に関する研修会では札幌市立八寒西小学校長の新保元康先生を講師に迎えて ICT を効果的に使うことで学力を上げる実践について分かりやすく教えていただきました。これまでの取り組みの成果としましてタブレットなどの ICT を普段からアクティブラーニングの授業で使うことにより児童生徒の情報活用能力を高め学習意欲の向上や基礎基本の習得、活用力の育成、学習規律の向上などに効果があったと市内の特色ある教育活動に取り組む学校から報告を受けています。また、文部科学省の「平成 27 年度学校における教育の情報化の実態調査」によれば研修を受けた阿波市教員の ICT 活用指導力は全国平均、徳島県平

	<p>均よりも高くなっております。</p> <p>次に課題ですが、特色ある教育活動に取り組む学校で成果を上げているアクティブラーニングを阿波市型アクティブラーニングとして一層効果的なものにし、市内全校に広げ市内全ての子ども達の学力を伸ばして行くことです。大事なのはこれまでにやってきた実験観察や直接体験するアナログな学習も大切にしながら ICT を効果的に活用したデジタルな学習もハイブリットで行うということです。</p> <p>今後も ICT を活用した阿波市型アクティブラーニングを推進することで阿波市の子ども達の確かな学力育成のため現場とタイアップして努力を続けてまいります。ご清聴ありがとうございました。</p>
野崎市長	<p>ありがとうございました。今、村上先生の方から ICT 教育のパワーポイントあるいは資料の説明がありましたが、教育委員は事前に聞いたことがあるのですか。今日初めてですか。</p>
坂東教育長	<p>少し内容が違うがだいたい知っています。</p>
野崎市長	<p>それならば、いきなりご意見を伺いたいと思いますが、皆さま方に出来れば順番にお願いしたいのですが、どなたか先陣を切っていただきたいと思います。</p>
重清委員長	<p>昨年の11月の第2回総合教育会議の初めにも申し上げましたが、それと同時に学校訪問についての感想とお礼を申し上げたいと思います。</p> <p>阿波市総合戦略の中で情報化や国際社会で活躍できる人材を育てるために昨年8月に学校へのタブレットパソコンの配備によりまして夏休み後半に短期間ではありますが各小中の先生方が研修を受けられまして昨年の2学期より今まで以上に ICT を活用した授業がなされています。分かりやすい授業とともに学力向上に期待をし、今年5月末より6月末まで各幼稚園、小学校、中学校（小学校は10校、中学校は4校）の学校訪問をいたしました。小学校、中学校ではまだまだ始まったばかりで未来を担う子供の人材育成の過程ではありますが子ども達の興味を引き集中力、考える力を高め分かりやすい授業がなされておりました。児童生徒がより良い環境でより分かりやすく能動的に学ぶことが出来ておりますのも阿波市が学校教育にご尽力いただいているからこそで一重に市長様はじめ議員の皆さまのおかげだと心よりお礼を申し上げたいと思います。</p> <p>またあとで、学校訪問で委員の皆さまに感想を述べていただきたいと思</p>

野崎市長	<p>いますが、今後ともご理解をいただきながらご支援をよろしくお願ひしたいと思ひます。</p> <p>それでは、本題に入りたいと思ひます。今の映像を見て ICT の本当の教育ってどんなのかなという感想を込めてご意見を伺いたいと思ひます。出来れば、メリット、デメリットがあると思うのですがそれも踏まえてご意見をお願ひしたいと思ひます。</p>
庄野委員	<p>今、重清委員長の方からのお話もありましたが、5月末から6月末まで学校訪問をさせていただきました。各学校で授業をしている様子を見て非常に ICT を活用している学級が増えていると率直に感じました。その活用の仕方なのですが先ほど村上先生が見せてくれたような活用の仕方がいろいろな工夫をしてされていました。例えば、特に印象に残ったのは習字で習字の先生が書いている手本を映しだして子どもに見せて、「はらい」はこうする等良く分かりました。他の学校では、習字のソフトを使って市販の書き方を見せていました。そういうふう非常に具体的に分かる授業の仕方とか、先ほどのプレゼンの中にもありました体育でも2校が運動の仕方もタブレットを使って見せていました。これも非常によく子ども達も分かっていたと思ひます。私が現役の時代も少しずつそういうふうになりかけていたのですが、非常に広がっている感じがしました。他にもいろいろな所で使っているのが感心したのですが、特に印象に残っているのは大俣小学校の6年生が「なりたい自分になる」ということでタブレットを1人1つずつ使って自分の将来設計を、将来こういう職業に就きたいならその職業に就くためには今なにをしなければいけないかということ自分でまとめて、まとめたものを前のモニターに送ってそれを皆に紹介していました。そして、それについていろいろ話をしてもらおうというこれからの職業の事を見越したような授業でした。子ども達が本当に自分が考えて友達に表現して自分を成長させていくというような授業になるのではと見ていて感心しました。そういうふうに各学校で取り組みがなされているということが非常に良いと思ひました。これは先ほどもお話がありましたように阿波市が非常に教育に予算をかけてくださっているからだと思ひます。私もいくつかの郡市で勤めてまいりましたが比較するわけではないのですが阿波市は教育に対して予算をかけてくださっています。それはそのまま子ども達に反映されているように思ひます。後、メリットはたくさんあるのですがデメリットというのではないのですが、よく言われている費用対効果という観点で ICT が教育をどれだけ底上げしているか目に見えて分かる</p>

<p>野崎市長</p>	<p>かと言われたらなかなか難しいと思います。ただ、底上げは確実にしているのでもそれは何年か後に出てくると思われます。それから費用対効果を考えるのであればどれだけ先生方、子ども達が ICT 機器を活用しているかが増えている度合いである程度分かるのではないかと思います。阿波市はどんどん子ども達も先生方も ICT を活用するということが増えていっているのでも、それはそれだけ ICT の効果が表れているのではないかなと私自身は思っています。</p> <p>ありがとうございました。今日はコメントを控えたいと思っていますけれども本当に庄野委員はメリット、デメリットなども言われました。時間はかかるけれども ICT が子ども達の教育のために時間はかかるけれども底上げには役立っていくだろうと、本当に嬉しい意見ではないかと思います。もう 1 点 ICT に取り組む先生方がどれだけ本当に学校格差がないように ICT を活用できるかどうか、そのあたりのコメントというものは私もしっかり頭に置いておきたいと思ひます。</p>
<p>森委員</p>	<p>ICT を活用した取り組みということですがけれども、常々思っているのは、阿波市が特に教育に懸ける意気込みと言ひますか、その裏付けとして金銭的な面です。非常に現場の方からも周辺の市町村の方からもよく褒められるので、私も「阿波市良いだろ」と良く自慢するのですが市長様、議長様、副議長様、議会の方、市役所、全ての方々にお礼申し上げたいなというふうに思ひております。そんな中で、今年の 6 月に各学校を回らせていただきましたが学校によって多少の差はあるのですが ICT を活用して、とにかく授業の中で分かりやすい授業、学力の向上というようなことを目指して取り組んでいるのですけれども変わったと 1 番感じたのは授業の始めに画面に教師が口で話すだけでなく映すと子どもが全員そちらに向くのです。今までは教師が口で言うだけであれば何人かは違うところを見たり、ごそごそしていたりということがありますが全員が向く、その時点で全員が集中しているということでも先ほど庄野委員さんからも長期間かかるであろうというふうな話がありましたけれども、ただそれを見ているだけで、中には授業の最初の時点で教師が聞いたときに全員の手が挙がる、今まで授業見に行きましたけれども全員の手が挙がるなんて、どんなに多くても 8 割 9 割くらいで残りの 1 割は手を挙げたりしないということでもこの注意を喚起する、集中力を引きつけるという意味で非常に効果が上がっているのではないかというふうに思ひております。中には特別支援学級で非常に好きな子たちの非常に積極的な取り組みがありました。出来るだけ使える時</p>

	<p>間というものを学校で工夫しながら個人個人の持つ欲求というか、それに応えていくと更に伸びて行くのではないかというふうに思います。それをするためには1人1人の探究心、好奇心がベースに育ってこないといけないと思うので、先ほども話がありましたけれど活用能力、そういうものも同時に高めていかないと効果は上がらないのではというふうに思うのですが、どんどん繰り返していくことによって着実に活用能力等が育ってくるのではないかと思います。ICT から情報を得て、それをどう読み取って理解して、そこから比較したりまとめたりしながら必要な物を取り出す、あるいは相手に返していくというふうなことを出来るかという、そこをとにかく繰り返してしないと力はないと思いますけれども、そこは十分踏み込んで、これからの向上に期待をするのがよいと思っております。やっぱり人1人1人が足を踏み込んでいろいろな気持ち（探求心）が出てきたらもっともっと向上する余地はあるのではないかというふうに思っております。</p> <p>上勝町の例を見ても70歳、80歳のお年寄りがタブレット型のパソコンを大分前から使いこなしているのです。こうしたいという気持ちにどのような機器がいるのか、機器に関しては機器専門の方に作ってもらって生活の中で活かして使えるということは使いたい意欲を育てていく必要もあると思っておりますけれども、とにかく今着実に進みつつあると思っております。</p>
野崎市長	<p>ありがとうございました。1番発言の中で感心したのは子どもの集中力が出来た、きょろきょろしている子がなくなったということです。これは1番気にしている所なのですが、そのような面ではICT というものは素晴らしいものかなという感じがいたしました。</p>
大戸井委員	<p>今、村上先生からご説明いただいた資料の1番最後にあります「ICT を活用した成果と課題について」ということにも関連してくるのですが、このICT を活用した授業を学校に行き拝見させていただきました。それで、こちらには成果と課題とありますが、更に、期待することを入れさせてお話しさせていただきますと、ICT を入れることによって分かりやすい授業、興味がわく授業、そして授業自体が促進してICT を使うことによって読書離れをするのではなくて読書活動が更に進むという期待も深まるのではないかなと思っております。また、今問題になっているインターネットとかスマートフォンを使いたいじめとかもあります家庭の役割も同時に担うことによって情報モラル等の教育も同時に出来るのではないかと期待しま</p>

	<p>す。ある小学校を訪問させていただいた時に貼ってあったのですが「判断力の差は情報の差」というものが小学校の教室に貼ってありました。そういうことを小学生の時からきちんと教えて情報の差が社会を生き抜いていくうえで力を付ける上で大切だということを既に小学校の時からきちんと言葉にして身に入るところにきちんと貼ってあるということもICTを活用した授業と同時に非常に良いというふうに思いました。言葉にすると本当により一層分かるのではないかと思いました。またグローバル人材の育成にも当然繋がっていくと思えますし、あとアクティブラーニング、授業、教育を進めてくだされば有効な活用が出来るのではないかと思います、ただ、アクティブラーニングがこちらの資料にもありますが学び合うということが決して雑談で終わらないような配慮というものもこれからは大事なのではないかと思います。一見学び合っていると思っても雑談なら雑談で終わるといことがないような指導もICTを活用した教育の中では大事な部分ではないかと思いました。成果が非常に目に見えにくいという話があったのですが、1つの単純な事実としてもうすでに大学4年生の方がいるのですが小学校の時に1番最初のパソコンの基礎的なことを小学校で教わってそれがきちんと大学でも通用する、実際にお母さんの仕事を小学校の時に学んだことでサポート出来ている、すごいなという話をしたのですが、本当に小さな時に学んだことが実際に役立っているということが1つの事例だけなのですけれどよく分かりました。子どもというものは吸収力も早いしそれを実際に使うことが出来るということがよく分かって、目に見えない、数字に表すことが出来なくても、本当に昔習った今のよう環境ではなかったけれどもきちんと成果は出ている、活用されていると分かりました。本当にこういった事をずっと繋げていきまして阿波市の素晴らしい人材育成に役立てればなというふうに思っております。</p>
野崎市長	<p>大戸井委員の話の中で子どもの時、小学校低学年の時に学んだことが大学、社会人になっても通用する。結局はグローバル社会の人材育成にということなのですけれども非常にありがたい意見だと思います。</p>
安田委員	<p>皆さんに良い所を十分おっしゃっていただいたのですが、私の方からの感想は学校訪問の時に1番感じたのは子どもの集中力、その前の年に行った時は教室の後ろでも高学年で遊んでいるのだろうなというふうな子も何人か見受けました、しかし、タブレットが入ってタブレットの授業をしているときは誰1人としてその授業からはみ出ている子という子がいなくて全員が集中しているという印象がすごくありました。特に先ほど庄野委員</p>

がおっしゃっていた大俣の6年生が「なりたい自分」をタブレットの中で作って前で紹介するというのはどの子どもさんもいろんな工夫をして画面を絵で飾ったり、将来のなりたい職業の内容をインターネットで調べたり、どの子どもそれぞれが十分に工夫した「なりたい自分」という物を発表出来るように資料を作っていたりして発表していたのがすごく印象に残りました。それと以前パソコンで授業をしているときは普通の足し算であったり普通の計算問題をしているだけであったり、調べ学習だけであったりだったのでタブレットになってずいぶん出来る事が増えてきたように思います。グループ学習で1つのタブレットを皆で使って画面を前に映しだしたり、4人で1グループに4つのタブレットを使っているのをこのグループだけのタブレットを前に映しだしたりと細かい操作というものが出来るようになって先生たちも工夫次第ではどんどん子どもの興味を引くような授業の進め方が出来るのではないかとすることはとても感じました。それと、先生のお家でどれだけパソコンを使っているかによるとは思うのですが、先生の中ではデジタル教科書以外にもNHKの放送なんかを録画して生徒に見せたり、音楽の先生も歌のイメージ映像などを教室に流して子どもの歌の気持ちをそそるような授業をされていて各先生が個人で考えた工夫を取り入れた先生もたくさんいるのでこれは先生も余分な仕事で大変だと思いますけれども工夫してされているのですごく良いと思いました。それと先ほども大戸井委員がおっしゃったようにお家にパソコンの環境がない子どもはたくさんいるのですが上手にローマ字で入力をしています。お家でパソコンをしているか聞くと家にパソコンはないと言うので、学校だけでしているだけなのに両手でローマ字を器用に打ち込むのです。学力にはすぐには繋がらないかもしれないけれどパソコンを使う能力というものは既に私たち以上に出来ているのではないかと感じました。まだお家にパソコンがない家ってけっこうあるみたいですが学校ではあれだけ使いこなせるということは子どもにとってすごく将来メリットになるのではないかと思います。ただ、デメリットというものがあって学校の使用の格差というものは感じました。小学校などは頑張って使ってくれているというのはあったのですが中学校においてはよく使ってくれているところとあまり使用されていないところで格差を感じました。やはり、得意な先生がいるとか、学校で皆で使おうということが、格差があるのかそれは分からないのですがそういうものがあるのでせつかくの機会ですしやはり全市共通の目標なんかを掲げてこれからは学校間格差などが無いように使用方法というものをこれから考えていかなければいけないのではないかと思います。せつかくの良い機器が入っていますので、それを考えていかなけれ

野崎市長	<p>ばいけないのではと思うところと、それと今小学校高学年からスマホも持っている子どももたくさんいるがスマホを使うなということは言えないのでタブレット端末なんかを使うにあたってブルーライトの影響とか使う時間の制限などを小さいうちから教えていったらいいと思いました。自分のスマホを持って使うようになってから制限してもなかなか子どもはしてくれないので、だから低学年からブルーライトの影響とかを教えていくということをもっと良い環境で出来ていくのではないかと思います。</p> <p>貴重なご意見ありがとうございました。特に気になったのは小学校というのは活用に差が無いように思うのですが、中学校で結構あるのではないかとこのところが実は気になりました。もう1点、今日村上先生の話も聞いて分かったのですがタブレットというものは集団やグループで反復しながら学習できる、このあたりは素晴らしいと私は思います。集団、グループ利用が簡単に、皆で出来る、このあたりがすごいと感じます。</p>
安田委員	<p>タブレットって撮った画像とか動画をそのまますぐに見ることができるのですよ。子どもが撮った画像もすぐに大きい画像に映し出すことが出来るのです。パソコンだと今までデジカメで撮って撮り込んでという操作が必要だったのですが、とても簡単に出来るのです。それと持ち歩けるということがすごくメリットでどこの学校でもそれを活かしているという感じはありました。パソコンでは今までできなかったことが出来ているということはありません。</p>
野崎市長	<p>もう1点、安田委員さんからお話があった中で、インターネットとかは子どもがやりだすとなかなかやめられないじゃないですか。これを低学年からどのようにして教育していくのかなと、のめり込んでいくということではなく、そのあたりは学校で教える先生もいるのだろうけれど少し気になる発言かなという気がしました。</p>
重清委員	<p>皆さまと同じで学校訪問で感じたことはやはり小学校は本当に各学校とも積極的に校長先生、教頭先生、教職員が一丸となってICTまたアクティブラーニングについて子ども達のために取り組んでいこうという意気込みがありました。本当にそういう気持ちに応じて先生方が分からない時は互いに交流しながら、研修を積みながらICTを活用し、授業を進められていましたが、どうしても先生が1人で頑張っていこうと思うと、かなり負担がかかりますが先ほど皆さまがおっしゃったように子ども達というのは大</p>

	<p>人よりはるかに吸収力があります。どんどん子ども達も自由にタブレットなり ICT を使える環境を作ってあげておくと先生が1人で抱え込まないで、子ども達も自分で自由に使えるようになり学習内容も探っていくと思います。実際に、小学校によっては教員も児童も自由に使用できるように置いてありました。そういったことから普段から活用出来るようにしていると授業の面でも郷土学習する場面でもしっかりと活用が出来るのではないだろうかと思います。アクティブラーニングという言葉が今年各学校訪問でよく聞いたのですが前々から言葉は違っていても主体的、協働的に学ぶ学習というものは行われておりました。ICT の活用が入りまして特に主体的な学習の中で対話的学習とってグループ活動が出来、また自分の考え方を深めていく学習も出来ているように思います。すぐに結果は出ませんが必ず何年か後には学力向上においてもあらゆる場面でメリットとして出てくるのではないだろうかと思っております。</p>
野崎市長	<p>少し気になりますね。小学校の方が非常に熱心で中学校の事があまり出てこないですね。考えられることは小学校の方が先生の言うことを良く聞くのではないかなと思います。少し大人の方へ踏み込んでくる中学生というものは1番自我が目覚めてきている時期ですからそのあたりが中学生の先生も大変だという気がします。そのあたりは委員会の中の内部で検討されて、その対応についてお聞かせ願いたいと思います。</p>
坂東教育長	<p>皆さんがおっしゃっていただいたように、この何年か前と今の学校の先生方の授業を見せていただいてずいぶん変わったなと感じております。それは今までは教科書、黒板、板書、チョークという感じが標準でありました。中にはプロジェクターなどいろいろ使っている方も多くいましたけれども最近は学校に差はありますけれどもどこに行っても先生方がICTを活用していろいろ工夫なさって子ども達が前を向いて授業に取り組んでいる。そういうような状況が見られて大変嬉しく思っております。ICT は教師による ICT 活用と児童生徒にとってどのように活用するのかという2通りの目標があると思うのですが、教師の ICT 活用というスタートしたばかりなので私はICT をどんどん使っていただきたいのですが1時間45分の間全部 ICT を使う必要はないと、教師は1時間の授業の中で子どもに教えたいことの目標があると思うのでその目標を達成するためにICT をどう使うか、効果的に使って子どもが食い込んできて1時間の教師が求める目標を達成できる1時間であってほしい、そう思っています。ですので、ただテレビに大きな画面を出すだけ、ただ資料を並べるだけでは先生は意図</p>

して気持ちがあつてこそその授業ですのでただに時間を使ってばかりではおかしいので効果的な指導をしてほしい。今後、まだ始まって1年余っていますので、まずは使っていただきたいということが1番です。そういったことが必要ではないかと思ひます。子どもは、小学校段階では基本的な操作を習得し中学校に入れば主体的、積極的にこれを使って情報を発信するというところの目標があるかと思ひます。それぞれ発達段階に応じて必要だと思ひますし、最近のメールによるいろいろな事件もありますが、こういったメールに対しても情報モラルにつきましても小学校、中学校、それぞれの発達段階でモラルということについても十分指導をしていただきたいと思ひます。

最後に1点ですけれども、先ほど村上先生の方からもアナログプラスデジタルという話がありました。いわゆる反復学習と基礎的なことは鉛筆でノートに書かしないと子どもはだめだと思ひます。小学校で習うべき教育漢字は1026文字あります。それから、中学校におきましたら常用漢字が2100文字くらいあるのですけれども、全部で中学校を卒業するまでには3000余りの漢字を読み書きできるということが求められております。そういった時には、やはり、実際に手書きで教師も授業をして本当に大切な時は手書きで板書して、基本的に大事なことはきちんと押さえるということも必要かと思ひます。

野崎市長

これは丸きり私の意見と同じなのですが、実は教育というものは五感を駆使してすることが教育ではないかなと基本的に思っています。目で見ても耳で聞いて口で話して手で触れてみる。漢字なんかはノートに書くというのですか、そういう能力、五感を使うということが子どもの心の情緒的なところで1番大事なのではと教育長とも議論したのですが、ICTがどこまで人間形成に役立っていくのかなという気がして仕方ないです。本当に基本的な肝心なこと、教育の原点のお話をさせていただきました。ありがとうございました。

少しここで、頭の整理をするため、その他の所が重要になります。頭の整理をしていただきもう1度それぞれ時間内ですが発言をしていただきたいということで45分まで休憩したいと思います。

今、議題の中でICT教育ということで皆さんに素晴らしいご意見をいただきました。これも中に入れながら、その他の所で言い忘れたことがあれば、阿波市の教育に取り組む姿勢が素晴らしいなどお褒めの言葉がありましたけれど、そういうことも取り入れながら再度ご意見をいただきたいと思ひます。順番ではございませんので言い忘れたことありましたら伺いた

<p>江澤議員</p>	<p>いと思います。</p> <p>今議会の中で、樫原伸議員から ICT の成果と ICT を含めた英語教育の質問が出ました。やはり議会の中でも ICT の成果がどういうふうになっているかということです。いぶん議員の方も興味を持たれていますので成果を十分活かしてほしいと思います。私は、将来的に小学校 1 年の教科書配布の時に 1 人ずつに配布できるようにしたいと思っております。これは何年かすれば全ての小学校の今の段階の子が大きくなっていったら全生徒にタブレット端末が 1 人 1 台というふうな時代が来ると思います。そういう先進地の地域もありますし、そういうところで宿題にしてもタブレットの中に問題を入れておけばそういうふうな展開が出来るのではないかと思います。議会の方も今、ハード部門も他に比べて素晴らしいと。この頃運動会やお祭り、芸術祭などで学校の先生とお話をする機会があるのですが、異動してきた先生は「阿波市は素晴らしい」と皆ハード面については褒めていただけます。ソフト面もタブレットを活用して成功して阿波市は教育環境に関しては異動してきた先生は素晴らしいと言っておりますので、ハード部門は大方出来上がりましたので次はソフトの段階、将来的に全ての生徒に 1 人 1 台という予算を付けたいと思っております。もう今、小学校入学した時点で 1 人 1 台配布している自治体もあります。そういう先進地の視察もみなさんにさせていただいて、どういうふうに展開しているかなど、特に教育委員会などそういう先進地を視察していただけたらいいと思っております。現実に小学校入学のときに教科書と一緒にタブレットの貸与をしている自治体はありますから。私は、将来的にはそういうふうなことをして優先的にできたらいいと思っております。大阪の橋本元知事さんもすごく力を入れていたので、大阪にもそういう地域があるので、そういうところへもタブレットがある程度浸透してきたら視察していただいで、阿波市が県下で初めて全員に配ることが出来るというふうなことになるればいいと思っております。議会にも今回質問が出ましたが。</p>
<p>野崎市長</p>	<p>本当に今回 ICT、タブレット端末が県下で初めて入ったのですが委員さんの話を聞きまして非常に効果があるのではないかとこれからも子どもの発育・教育に役に立てばと思います。江澤議長様、松村文教厚生委員長様、議会の皆さまのおかげで。</p>
<p>江澤議員</p>	<p>全生徒に小学校入学の時に義務教育と一緒に配布しているところが出てきていますからね。</p>

<p>松村議員</p>	<p>実にタイムリーなのですけれど、私たち文教厚生常任委員会で来月滋賀県の草津の方へ視察に行きたいと、村上先生にもお願いしてちょうどこの勉強を文教の委員さんにしてもらいました。知識を持ってもらってから視察に行くということで、議長もおっしゃったように最終的には本当に入学生1人に1台渡せることが目標でございます。それと、長い目で見て1年で学力向上のためにしているということで良いと思うのですが、基本方針の4番の中にもありますように情報教育、国際感覚豊かな人間育成、こんなふうにICTが使われていくのだろうなと思っております。信号機が赤・青・黄色ってありまして、青が1番危ない、青信号というものは安心が前提であるから気を付けない、赤信号で渡るときは気を付けるのです。だからそういうふうな感覚とか、自分で自分を守る感覚とか日本人は欠如しておりますので、いろいろな面で活用できるようになってくると思っております。今のところ1年はこういう感じで仕方ないと思っております。視察に行ってみますので、村上先生にもどうですかと御誘いはしてあるのです。</p>
<p>野崎市長</p>	<p>全国の交通安全運動を盛んにしていますけれど、確かに青信号が1番危ないかもしれないですね。そのあたりは気を付けていただきたいと思います。</p> <p>少し、私も気になって仕方ない所が2点ほどあるのですが3ページの所にICTを活用した取り組みで校務支援システム、校務負担ですね。これの中で村上先生からは92%の先生が校務負担の効果があったという数字ですが、少し当てはまるというところが36%というところがやはり気になる数字です。なぜならば、当てはまるが56%なのです。本当に良いという物が出ているのは56%なのではないかという気がします。このあたりを教育委員会が現場の先生方にしっかり聞いてみてほしいと思います。はじまったばかりですからピンと来ない部分もありますけれども、あまりあてにならない、当てはまらないこれは当然8%いますけれど、気になるのが少し当てはまるというものの率が高いのだなと思いました。また現場の方で気を使っていたきたいと思います。</p> <p>それともう1点ですが、3ページのICTを活用した取り組みというところで活用の時間数を言っていましたよね。週に2時間、今、端末が入っているのは1学校1クラス分ですが、週2時間って現実に全校生徒学年全てに本当にできるのかなと気になって仕方ないです。しかし、費用対効果の問題で全クラスに端末を入れるというわけにもいかないと思います。そのあたりが子ども達にICTを活用した授業が公平公正にまわしていけるのか</p>

	<p>など、先生方が全部に取り組んでいただけたらいいのだろうけれど得意不得意の先生もいますから中学校の問題も出ていましたけれど先生方の養成もどうするのかなど、これは教育委員会の方で少し検証してみてくださいね。そして次の第2回の総合教育会議でそのあたりの対応はどう現場で出来るのかということをお願いしたいと思います。私の方が意見を言うのはだめなのですが、もう1度検証の方よろしくお願い致します。</p>
坂東教育長	<p>今の活用の時間数につきまして、校務負担につきましてご意見いただきましてありがとうございます。今後課題にしたいと思いますが、時間数ということで年600時間と目標にしています。ただ、35台を1クラス分としてタブレットがあります。ただ、1人1台で使った場合にその学年が1時間です。しかし、4人に1人、3人に1人と使いますと4人に1人ですと7台あれば大丈夫になります。そういった4人に1人使う授業もあるし、その中で4人の子どもたちが話し合っってタブレットを使ってというふうにいたしますと3クラスくらいは出来るということも可能になります。今までだとコンピューター室に入りますので1学年ずつしか入れませんでしたタブレットは持ち歩けるので3学年出来たりします。そういう使い方もございます。</p>
野崎市長	<p>現場では既にやられている学校もあるのですか。</p>
坂東教育長	<p>そういった実態に応じてそんな使い方もあります。全部無線で繋がっていますからどの教室でも使用が可能です。そういった実態がございます。</p>
野崎市長	<p>どこの学校もそういった教育長が言われた活用法をされているわけですか。</p>
坂東教育長	<p>それは、今はまだ頭が固いので1人1台教室で30使うことを理想としていますけれどそんなこと関係ないので4人で1台使えばいいと、そんな活用の仕方も出来ると思います。それはまた先生方の授業の要望で使っていていただいております。</p>
江澤議員	<p>中学生になれば学力の差が出てくるのでグループということは...</p>
坂東教育長	<p>教え合いということもありますので、自分がきちんと理解できなければ人にきちんと教えられないということで、そんな使い方皆さんいろいろ</p>

重清委員	<p>工夫されています。</p> <p>学校訪問させていただいた中で教育長さんがおっしゃったように各班に1台タブレットを置いて他の子たちはホワイトボードなどを使って考えを書き話し合い、それをまとめるうえでタブレット使用するという形をとって、それを先生が操作をして前に映し出すというような授業を展開されている学校もありましたので1人に1台無くてはならないということではなく、従来のホワイトボードというものは安く購入できるのでそれをよく使用している教室もたくさんありました。</p>
野崎市長	<p>嫌味で言っているということではなくて教育長、教育委員長が議会答弁だったらいいのだろうけれど、実際の現場で教育次長も2人呼びまして、本当に各学校で今教育長さん達が言っていることが出来ているのかどうか。</p>
庄野委員	<p>学校訪問に行ったときに見せていただいたときは出来ていました。全部がしているということではなくて、出来ている学校もありましたし、1時間しか見ていないのですが。</p>
野崎市長	<p>僕が言っているのは本当に小学校の10校、中学校の4校が教育長たちが言われていることが本当に出来ているのかどうか。してもらったためにしっかり教育委員会などが利活用のマニュアルを作って各校長に指導してもらおう。各学校格差のないように公平公正にこういう端末が使えるようにしないといけないですね。そのためにはきちんと書いたものがあると思います。その書いたものを持って行って実行させなければいけないと思います。繰り返して研修していく。そういうシステムが必要ではないかと僕は言いたかったのです。だから今の教育長や教育委員長の答弁は議会答弁になってしまうのですよね。議会答弁ではどうにもならない。現場がどうなっているのか、そのあたりを教育委員さんの方でも教育委員会とも相談しながら検証してほしいと思います。</p>
安田委員	<p>実際にKPIで600時間になっているのですが先ほどのグラフを見たら分かると思うのですけれども、目標値を大きく上回る学校もあるのです。タブレットも取り合いになるということもあるのですけれども、市長がおっしゃったようにどこもそうでなくてはいけないと思います。これからは教育委員会がマニュアルを作って格差が無いように持って行くのが教育委</p>

重清委員	<p>員会の役割だと思います。だから実際に600時間を越して800時間近くいく学校もあるとは思いますが週2時間など言わずに、中学校でもたくさん使っているところもあれば、使われていないのかなという感想を持てる場所もあったので、その格差をなくしていくということがこれからの課題かなと思います。</p> <p>今回、11月11日に一条小学校の方で情報教育研究大会があります。県内の先生方が来られ、ICTを使った授業が3年生から6年生で行われるのですが、今、市長がおっしゃったように市内の学校の格差がなくなるようにするには市内の学校の先生方が真剣にICTについて学ぼうと勉強に来られると思いますので、いろいろな考えや方法をしっかりと持って帰っていただいて、学校でもしっかりICTの使い方を再度話し合わせ授業で活かしていただけたらと思います。</p>
野崎市長	<p>ある学校の校長先生が市長室にいきなり来られて、いろいろな学校を回ってきたが阿波市に来てびっくりしたと言うのです。デジタルブームとアナログブームがマッチングしていると言われ不思議に思いました。とにかく子どもたち全員、町の子どもに比べて良い。その次に言われたのが施設が素晴らしい。その次に地域の方がすごく協力的。この3つをととても褒めてくださいました。急に嬉しくなりました、本当に毎年言われるのです。本当に嬉しくて今日も委員さんにお褒めの言葉いただいたのですが実際の校長先生たちに言われると涙が出るくらい頑張らないといけないと思います。だから、我々が考えているような現場ではなくて県下を回ってきて阿波市に来るとそういうふうを感じるのでしょうか。地域力・市民力も褒めていただけたら嬉しいです。自信を持って子どもたちのためにしていかないとはいけません。</p>
坂東教育長	<p>市長さんの方からマニュアルという話があって委員さんのほうからも各学校同じ取り組みをしてほしいというお話がありました。私の方といたしましては、そのとおりだと思っております。先生達が効果的に活用して指導方法の改善をすることが目的であります。それで、ある程度の基準も必要だと思っております。具体的にはまず学習指導の準備段階、効果的な活用方法というものはどうなのかということが1点、それから授業で教員にICT活用をしてもらうのですけれどもやっぱり子どもに興味、引き付け、関心を持たすための工夫、今日の授業での課題はこれであってその効果的な活用方法、それから子ども達については基本的な操作を学ぶとともに</p>

野崎市長	<p>自分が考えた事をどういうふうに表示できるだろうかというような感じであまり細かいことはどうかと思いますけれどもある程度は市として共通したものを示したいと思います。特に小学校から中学校に進んだ段階に置いて各小学校の卒業生が中学校に来た時に差があるということは少し残念ではありますので、小学校段階では最終ここまでの力は付けて中学に上がってほしいと思います。教育委員会内でも検討して協議してそういったものを作っていきたいと思っております。</p> <p>ぜひとも、実行できる最低限の事はしないとですね。小学校、中学校が公平公正に子ども達に施設も機械も使えていけるような最低限のマニュアルがあるのではないかという気がします。それで、なぜ、僕がこんなに言うかということ、今まで言い続けて3年になります。ちょうど市内のある中学校から西に向けて6時10分とか7時ごろに帰るのですが、ところが高校生の死亡事故も起こっているところなのですが、せっかく建設課が力を入れて用地交渉を徹夜でするくらいなので自歩道もだいぶ出来てライトもついているのに子ども達って自歩道を通らないのですよ。本当に左側を通る。この間も3人グループと4人グループだったのですが、注意をしているのですがなかなかこういう会議の場面で決めたものでは末端へ伝わっていかない。これが人間の一番の欠点かと思います。特に子どもの教育・交通事故、これは我々が最善の努力をしなければと思います。伝達できていない。それからLEDのライトの会社が阿波市内の中学校の生徒全員に自転車に付けるライトをくれたのです。中学校で付けたところは皆付けるが付けないところは一切付けない。なぜこういう格差が出来るのか、ということはこういうところで決まったことが伝達されていない現場へ。だからこのICTも同じな気がして仕方がないのです。ぼくは立哨もしないですよ。しないけれど、そういう子どもがいたら必ず止めて注意する。子どもはわかりましたと言う。先生が指導していない。そういうところでも現場の校長先生、教育委員会も絡むことですからけれども本当に口酸っぱく言ってください。中学校の学校格差がひどい。教育の現場は分かりませんが、そういう通学路の指導あたりでしっかり見ていますからね。例えば、6時30分ごろに帰ると、ある中学生が西へ向いて自歩道を通っていない。止まって注意します。やっていますか。本当に皆さんしているのかなと思うのですよ。会議の時はしっかりするのですが現場に帰るとしない。人である限りはそういう現場の行動をしないといけない。職務を外れていても。これは本当に頼みます。それも今日の会議に便乗しながら言っているのですがけれどもICTの活用もそんな気持ちでしていただけた</p>
------	---

らと思います。

もう大方2時間になろうとしています。ご意見もおそらく出尽くしたのではないかと思いますけれども、このあたりで今日の議題については閉めようと思います。長時間にわたりましてありがとうございました。今日のご意見を私たちもしっかり頭に置いてしっかり子ども達のために役立てたいと思います。本当にありがとうございました。